

7月8日 三味線名曲選オンライン同時開催コンサートにおける OBS 使用についてのレポート

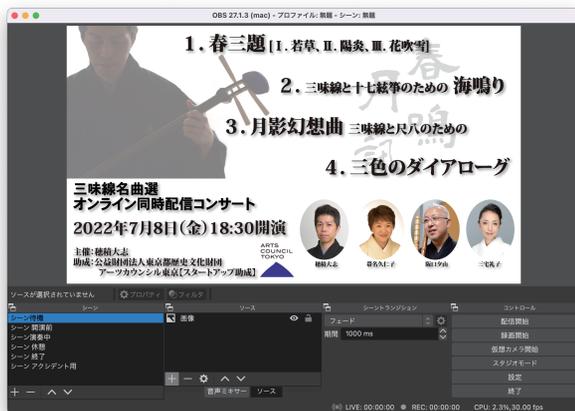
2022年7月13日 沖政一志 作成

基本的な OBS の使用方法については web 上で多々コンテンツがあるため省きます。
今回のコンサートにおいては簡潔にシーンを6つ用意しました。

- ・待機 … コンサート開演5分前くらいに Youtube Live に接続した際の画像
- ・開演前 … コンサート開始2分前くらいの待機画像
- ・演奏中 … 演奏時に使用するシーン
- ・休憩 … 休憩用のシーン
- ・終了 … コンサート終演後のシーン
- ・アクシデント用 … なんらかのトラブルがあった際のシーン。

※シーン「演奏中」以外には音声入力キャプチャや映像キャプチャデバイスを置かないようにしております。

待機



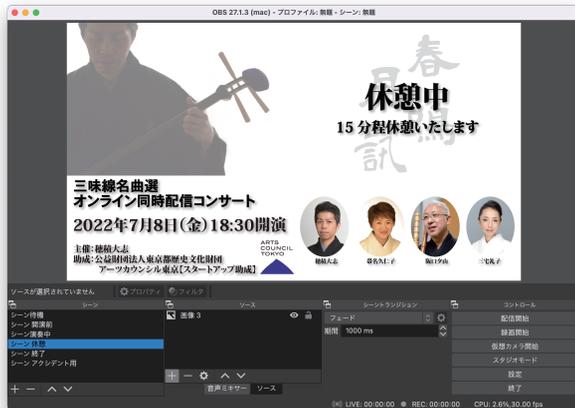
開演前



演奏中



休憩



終了



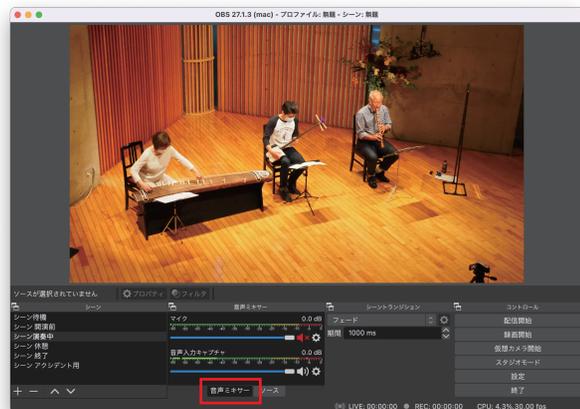
アクシデント用



今回のコンサートにおいて、低音楽器である十七絃を使用する楽曲があるため、音声のイコライジングをしました。会場の代々木ムジカーザには帯域をコントロールできるミキサーがないため、OBS上で音声のイコライジングをする必要があります。その手法を説明していきます。

注意点として、OBSは無料のアプリケーションですが、ここから先の設定では、OBS以外の有料のアプリケーションも使用をしています。

画像1



ホールのマイクからの音声を取り入れる為に、シーン演奏中に音声入力キャプチャを作成しているのですが、こちらを操作していきます。まずは左の画像1のように音声ミキサーを確認してください。

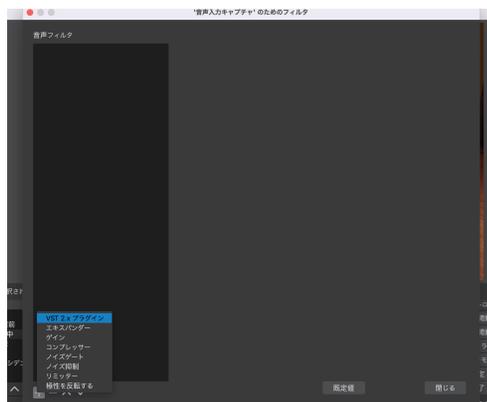
画像2



音声入力キャプチャの右下にある歯車マークをクリックすると設定を色々変更するためのウィンドウが立ち上がります。

※画像2参照。赤丸で囲んだマークです。

画像3

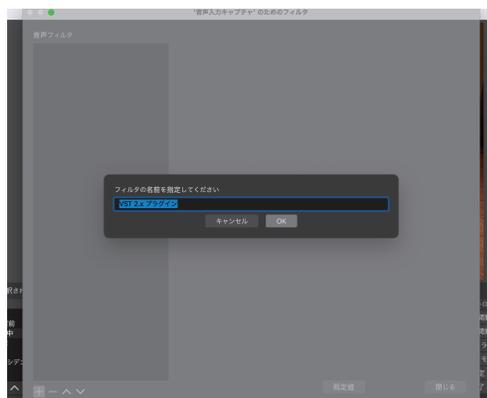


立ち上がったウィンドウより、「フィルタ」をさらにクリックすると、「音声入力キャプチャのためのフィルタ」のウィンドウが立ち上がります。

さらにそこから、画面左下にある「+」をクリックしてください。画像3のような形でさらに小さくウィンドウが立ち上がります。

その小さいウィンドウから「VST2 x プラグイン」をクリックします。

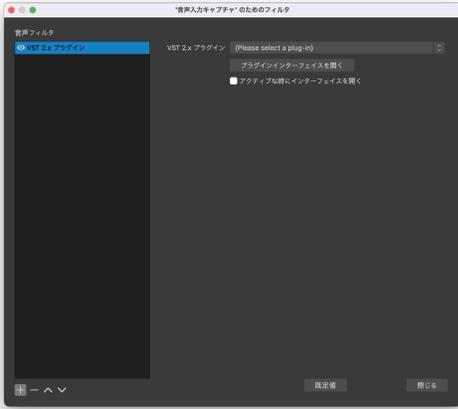
画像4



すると、画像4のようにフィルタ名の入力を求められます。いくつもフィルタを使うのであればそのままOKで良いと思います。

※OBSには画像3のウィンドウを確認するとイコライザーがない模様なので、OBS外のアプリケーションからイコライザー機能があるものを引っ張ってくる必要があります。そのために「VST x 2 プラグイン」をつくっています。

画像 5



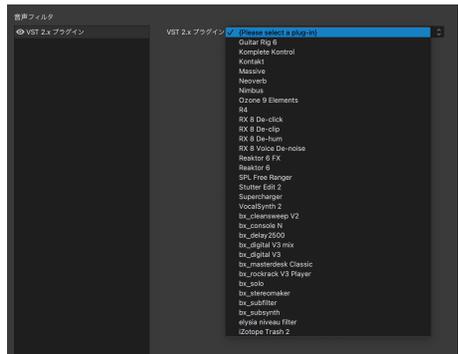
VST×2 プラグインの内容を次に設定していきます。

画像5のような画面になるのですが、画面右上の (please select a plug-in) をクリックすると画像6のようにプラグインとして使えるアプリケーションが表記されます。

※筆者は所謂 DTM と言われるようなことも作業としてしているために、各種有料のプラグインを多数所有しております。

使用したアプリケーションは「Ozone 9 elements」という iZotope 社の音声マスタリング用のアプリになります。(画像7参照)

画像 6

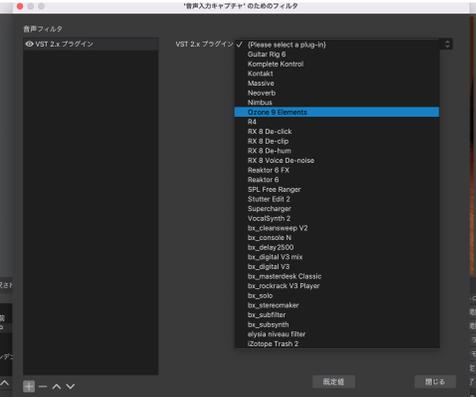


音声のイコライジングおよび、音割れを防ぐために大きすぎる音を小さくしたりするコンプレッサー機能、リミッター機能を持たせる必要がありました。

有観客の配信なので拍手が入るのですが、この拍手が相当な音量になり、音割れが予想されるためです。

iZotope 社の「Ozone 9 elements」は、定価は 14,960 円ですが、安売りをしていたり、セット販売などに付属していたりなどで 2,000 円程度で購入できることもあります。

画像 7

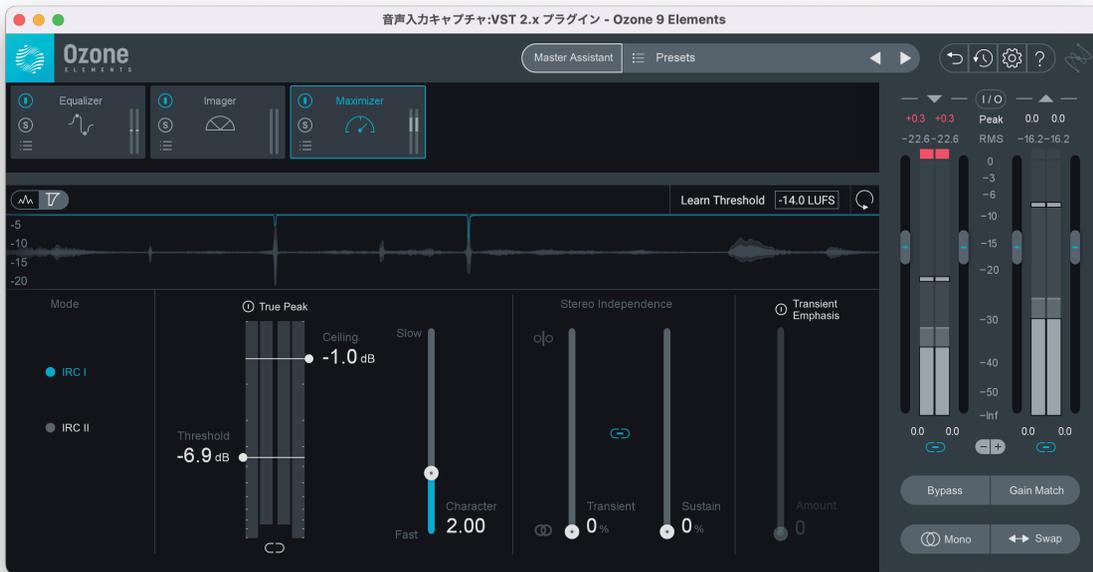


画像8、画像9がその Ozone9 elements の設定画面になります。

画像 8



画像 9



※7月8日の配信終了後、OBS 終了とともに設定も消失したため、同一のものではないです。

画像 8 がイコライザーの操作画面です。

100hz~400hz あたりを持ち上げ、50hz 以下と 8000hz 以上を下げる形をとりました。
単純に低域を上げると音の輪郭がぼやけるため、50 以下は下げる、という形にしています。
高域も、拍手が入ったりすることを考えるとやや下げておきたいな、という判断です。

画像 9 がマキシマイザーという、音圧を上げるための操作画面です。

こちらは左下から 2 番目にある部分のみを使用しています。

Threshold は、この値を音量が超えるとリミッターがかかる形です。

Ceiling は、これ以上音量があがらないようにする出力最大値です。-1db で、とにかくピークを
超えないようにするためのものです。

というわけで

- ・演奏の音高のバランスを整える
- ・演奏の音量の底上げをする
- ・観客の拍手等への対策をとる

この 3 つを兼ねられるプラグインとして今回は iZotope 社の「Ozone 9 elements」を利用してみました。